



県中いわて

令和3年8月1日 / 第254号

- 発行／岩手県中学校長会 ●代表／松葉 覚（盛岡市立下橋中学校） ●事務局／〒020-0885 盛岡市紺屋町2-9
（盛岡市勤労福祉会館2F）／電話・FAX 019(622)0572 ●ホームページ <https://www.iwate-jh-kochokai.jp/>
●印刷／杜陵高速印刷／電話019(651)2110

令和3年度 第71回東北地区校長会研究協議会岩手大会 コロナ禍を受けて、大会誌による発表会へ 「東北は一枚岩」を今こそ

第71回東北地区校長会研究協議会岩手大会(以下、「東北大会」という。)が本来であれば、令和3年6月24日、25日の両日に実施される予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、「大会誌による発表会」形式として開催することとしました。

【東北大会実行委員長による説明】

実行委員長（岩手県中学校長会副会長 内村弘子 盛岡市立松園中学校長）説明

第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会開催については、令和元年度より準備を進めてまいりましたが、収束が見通せない新型コロナウイルス感染症の拡大状況から、開催の可否について検討が必要であると判断し、令和3年4月13日付で 東北地区中学校長会 松葉会長名で「令和3年度東北地区中学校長会臨時副会長会での審議」をお願いしました。

審議内容は大会誌による発表会の可否、6月4日の会議をWeb開催とする可否、6月24日の理事会をWeb開催で行うことの可否の3点です。

審議の結果、3点について東北6県すべてに賛同していただきましたので、第71回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会は「大会誌による発表会」として開催することとなりました。ご理解に感謝申し上げます。

【令和3年度東北地区中学校長会第1回理事会】

上記の流れを受け、令和3年度の東北地区中学校長会の決議機関である理事会をWebにより開催しました。その際、令和2年度の事業報告、決算報告、監査報告等がなされるとともに、令和3年度の事業計画、予算等が承認されました。また、次の宣言・決議が決定しましたのでお知らせします。

全日中の宣言・決議を参考としつつ、東北らしさを表明した宣言・決議です。

今こそ「東北は一枚岩」の考えのもと、各中学校

で取り組みたいものです。

令和3年度 東北地区中学校長会
宣言

今日、我が国の教育は、人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を形成するたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、新型コロナウイルス感染症とともに生きていかなければならないという認識に立ちつつ、教育基本法等の関係法規、学習指導要領の趣旨を踏まえ、新しい時代の変化や諸課題にも対応しつつ、確固たる信念と自負をもって全日中教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、新たな中学校教育の創造に努めなければならない。

東北地区中学校長会は、中学校教育の更なる充実を目指して、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、東北各県民の負託に応じていくことを宣言し、以下の事項を決議する。

決 議

一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」の育成に努める。

一、全日中教育ビジョンを踏まえ、特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」の育成に努める。

一、現在の教育課題に即した研修の充実を図り、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。

一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、教育諸条件の整備・充実に期する。

一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を求め、教育水準の維持向上を期する。

一、学校における業務の精選・明確化等の働き方改

革を力強くリードし、新しい時代に応じた魅力ある学校づくりに努める。

一、東日本大震災及び原子力発電所事故による被災地における教育活動の正常化や防災教育等の更なる充実に努め、継続して東北6県校長が連携・協力する。

令和3年6月24日 東北地区中学校長会

【令和3年度 第71回東北地区校長会研究協議会岩手大会「大会誌による発表会」への経緯】

東北大会を「大会誌による発表会」形式にすることとした手続き等について、今後の記録として「県中いわた」に掲載します。（「東北大会」に関する部分のみ記載）

令和3年3月25日 臨時常任理事会

- ・東北大会実施要項について

令和3年4月2日 第1回県中常任理事臨時役員会

- ・東北大会実施要項及び開催方法等について協議

令和3年4月13日 第2回県中常任理事臨時役員会

- ・東北大会実施要項及び開催方法等について協議
- ・東北中学校長会臨時副会長会及び臨時理事会について

- ・東北各県中学校長会への意向確認について

令和3年4月21日 県中総会第2回準備委員会

- ・東北大会「大会誌による発表会」に関する東北各県の意向確認
- ・東北大会副会長会、理事会のWeb会議に関する意向確認
- ・大会誌による発表を「研究報告書」の作成とし、大会開催とする旨を東北各県の会員(中学校長)宛、文書発送

令和3年4月28日 岩手県中学校長会総会

- ・会長代行挨拶の一部に「東北大会を研究報告書

の作成に替える旨」を含み、総会にて全会員に提示

令和3年5月6日 第1回常任理事会

- ・東北大会実行委員会について（組織、会則、岩手大会の在り方等について）

令和3年5月19日 東北大会第1回実行委員会

- ・実行委員会組織、業務分担、業務推進計画、大会誌編集計画等について

令和3年5月24日 東北大会第1回副会長会準備委員会

- ・第1回Web副会長会について

令和3年6月2日 第2回常任理事会

- ・東北大会第1回Web副会長会及び第1回Web理事会について

令和3年6月4日 東北大会第1回Web副会長会

- ・令和2年度東北地区中学校長会事業報告、会計決算等について
- ・令和3年度東北地区中学校長会会長選出について
- ・令和3年度東北地区中学校長会事業計画（案）、予算（案）等について

令和3年6月7日 第2回理事会

- ・東北大会について
- ・実行委員会の組織、業務推進計画等について
- ・東北各県中学校長会への「研究報告書の原稿作成依頼文書」等について

令和3年6月24日 令和3年度東北地区中学校長会第1回理事会

- ・令和2年度の事業報告、決算報告等
- ・令和3年度の事業計画、予算案等
- ・東北地区中学校長会会則、運営細則、申し合わせ事項について等



【県中学校長会事務局室にてWebで協議をしている様子】



【情報交換にて各県の状況を熱心に聞く役員】

第72回全日本中学校長会研究協議会 静岡大会について

研究協議主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

開催期日 令和3年10月20日（水）～22日（金）

開催場所 静岡県浜松市内 アクトシティ浜松ほか

全体会及び8分科会に分かれて研究協議

本県からは割り当て地区の代表者及び県中学校長会の役員等が参加します。

参加報告は次号の「県中いわた」でお知らせします。

（※研究協議主題の解説や分科会協議題等は今年度の岩手県中学校長会総会要項50ページ以降を参照）

先輩メッセージ

校長を楽しめ

熊谷 司 様

(前盛岡市立飯岡中学校)



七年前、「凡事徹底」「率先垂範」「師弟同行」「和顔愛語」をモットーに校長職に就きました。校長職の重責をひしひしと感じ、その重さに耐えているような毎日でした。

ある会で、上田中学校でご指導頂いた本田正弘先生にお会いしました。その時に激励された言葉がタイトルの「校長を楽しめ」です。「頑張ります。」と応えたものの、「楽しむ」ことは自分には無理だ、本田先生とは格が違い過ぎると思いました。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策に明け暮れる一年のように感じました。消毒等の予防措置、学校行事・中総体や音楽コンクール等の中止・延期・縮小。これまで経験したことのない状況で、生徒に最大限の達成感や成就感を味わわせるためには、どうすればよいか悩みました。一人では結論が出ません。そこで、市校長会で各校の状況や対策の情報交換を何度も行い、悩みを打ち明け、本音で語り合い、結論を出しました。校長一人では前に進めることはできなかったと思います。校長会の絆が深まったと感じました。また、教育委員会と校長会、縦と横の連携を密にすることの重要性も改めて確認しました。

生徒会長が、「百折不撓の精神で、今できることを全力で!」と呼び掛け、生徒会活動の工夫を始めました。体育祭の新しいやり方の模索、手作りマスクを地域の施設に届けるボランティア活動など、三学年のリーダーシップや子どもたちの柔軟さに驚かされました。そして、全校生徒が心をつなげている姿は輝いていて、その光景に涙がこぼれました。

生徒たちの笑顔を求めることに全力を注ぐことが「校長を楽しむ」ことなのだと、退職した今、私は振り返っています。

どうぞ、健康第一!和顔愛語で!!

先輩メッセージ

アヒルの水かき

鈴木 秀行 様

(前一関市立千厩中学校長)



二十年前、盛岡教育事務所に籍を置かせていただいた。ある日、事務所事業を終えて合庁に戻り、エレベーターを降りようとした際に、エレベーター待ちをされていた石川悌司先生(当時、盛岡市教育長)にお会いした。悌司先生は我々を見つけて、「おっ、きゃあねえ指導主事さんだちよ。アヒルの水かきしてだが。」と言葉をかけられた。悌司先生一流の叱咤であり激励であった。私は指導主事としての職責の重さを自覚し、「見えないところで人知れず努力せよ。常に研鑽せよ。」という大先輩からの教えと受け止めた。以来、職は変われど「アヒルの水かき」を心に留めて、職務に当たるよう努力してきたつもりではある。

研修会で「校長もピンキリ。校長になった途端に勉強をやめる人がいる。本も読まなくなる人がいる。」と聞いたことがあった。そうはなるまいと自分に誓い、ことあるごとに悌司先生の「アヒルの水かき」を思い返した。もちろん、校長職を拝命してもこの言葉を忘れずに仕事に当たってきたつもりである。退職して我が道を振り返った時に「自分自身は常に未完成な人間である。校長の器たるべき人間に少しでも近づこう。」と陰ながら毎日のいくらかの時間は勉強に充ててきたと言える。(あくまでも自己評価、個人内評価なので、私を知っている人達から「何を言ってるんだ!」と言われそうですが……)

今、中学校では学力向上はもちろんですが、生徒指導上の問題や部活動の在り方、時間外勤務の縮減などの教育課題が山積し、さらに社会の変化にともない、ICT活用、防災教育などへの対応も迫られています。校長一人の力では立ち行きません。校長をリーダーとして、校内の組織を挙げて課題解決に当たってほしいと大いに期待しているところです。

「進みつつある教師のみが人を教える権利がある。」という警句があります。目の前の子どもたちのためにも、自らの人生にとっても、「アヒルの水かき」をし続ける校長であってほしいと思います。

ご苦勞は続くと思いますが、皆様方の益々のご活躍をご祈念申し上げます。

先輩メッセージ

教員という仕事の 魅力を伝えよう

松高 正俊 様

(前大船渡市立第一中学校長)



私が教員として勤務していた頃と現在では、教育をとりまく環境もいろいろな面で変わってきています。中でも、新型コロナ対応や教職員の働き方改革という面から、教員の仕事の大変な面がクローズアップされているように感じています。確かに大変な面があるのは事実ですが、私はそれを上回る教員という仕事の魅力があると思います。

私がいままでもないのですが、私の体験も含め、教員としての仕事の魅力をいくつか挙げてみたいと思います。まず個人レベルでは、「先生、問題の解き方がわかった」といってくれる子供の笑顔を見れること。故野村克也さんの言葉にもあるように、「人を残す」ことのできる仕事であること。行事や部活動等で生徒と共に感動を共有できること。生徒が卒業後も頑張っていることを知り自分のことのように喜べること。勤務したいいろいろな地域で、生徒はもちろん保護者・地域の方々との触れ合いを持てること。何人かの生徒や保護者とは一生の友となれること。次に管理職レベルでは、「生徒が笑顔で登校し、生き生きと活動できる学校を作る」というような学校経営ができること。教職員の持ち味をいかして働くことのできる職場を作れること。地域の学校として地域の方々の協力を得られること。観点はやや違いますが、東日本大震災の際、避難所で生徒・保護者と共に励まし合いながら過ごしたこと等挙げればきりがなくらい教員という仕事には魅力があります。

現職の皆さんは激務をこなしている毎日だと思いますが、直面している課題を改善していくことはもちろんですが、この教員という仕事の魅力も伝え、働きがいのある仕事にしてほしいと思います。

終わりになりますが、日々ご活躍をされている現職の皆様は益々のご活躍を心からご祈念申し上げます。

私の学校経営

「燃える滝二の創造」 を目指して

岩手地区 三浦 猛雄 (滝沢二中)



若いころ、いわゆる「元気のいい」生徒たちがたくさんいる中学校に赴任したことがありました。エスケープ、暴力、飲酒喫煙が常態化し、時には対教師暴力も発生しました。しかし、滅茶苦茶のように見える彼らでも、仲間と力を合わせて創り上げる合唱のすばらしさ、真剣に部活動に取り組む姿に、心が震えたことが幾度もありました。1年後、管理職として赴任してきたM先生が、生徒指導で疲弊していた教職員を鼓舞し、学校を大きく変えました。「教育は生徒のため、それが全て」と、様々な改革を始めたのです。その結果、わずか1年間で先に述べた問題行動がほとんどなくなり、我々教師も指導に自信を持てるようになりました。この経験は今でも私の生徒指導と学校経営の礎となっています。

さて、滝沢市の目指す学校像は「正義」を重んじ「信頼」される学校です。本市全教職員がこのことを意識して教育活動にあたっています。これを基本として、本校はさらに、職員には「正義」と「常識」を、生徒には「正義」と「情熱」を求めています。「常識」は、社会人としてはもとより、人間を教育する立場の教職員としての正しい立居振舞ができる職員育成です。「情熱」は、文字通り、熱い思いをもって挑み続ける生徒たちになってほしいという願いを込めています。このコロナ禍にあっては生徒会活動にも閉塞感が否めませんが、それでも生徒たちは情熱をもち、リーダーを中心に、学校のみならず地域にとって「自分たちが力になれること」を話し合い、全校生徒に呼びかけ、行動をしています。

滝沢第二中学校の校訓は「燃える滝二の創造」です。本校のすばらしい伝統の継承と発展のため、これからも「正義」と「情熱」を心に刻み、職員・生徒とともに様々な可能性に挑戦し、燃える滝二を創造し続けていきたいと思っています。

新任校長の抱負

一人の百歩より
みんなの一步

和賀地区 吉田 幸哉（湯田中）



今春、西和賀町立湯田中学校の校長として着任しました。錦秋湖を臨む坂を上り、小高い丘の上にある本校は、360度を美しい緑のやまなみに囲まれ、様々な鳥のさえずりとすがすがしい風が吹き込む白い校舎です。冬には、2m近い積雪で辺り一面銀世界となります。そのようなやさしくもきびしくもある自然の中で、生徒はぬくもりとかがやきのある学校をめざし、たくましく学校生活を送っています。

タイトルの言葉は、生徒会スローガン「常昇～一人の百歩よりみんなの一步～」の一部です。本校は、全校生徒48人の小規模校です。私には、その48人一人ひとりがかがやいて見えます。それは、生徒会スローガンが絵に描いた餅になっていないからです。このスローガンの意味は、一人ひとりが何事も当たり前のことを当たり前にやる大切さを自覚し、みんなでさらにその一步先を見据えて行動しようというものです。各学年の一人ひとりがそれぞれの場所で、一生懸命活動しています。

5月には、青空の下で運動会を開催しました。今年度は、保護者にもご来校いただき、子どもたちの活躍を参観いただきました。昨年度の無観客とは異なり、大いに盛り上がりました。当日はもちろんです。生徒が主体的に運動会に向けて準備できたことにも感心しています。3年生のリーダーシップの下、全校が一丸となって活動していました。まさにみんなで一步進んだ運動会となりました。

また、6月には地区中総体が開催されました。各クラブとも、少人数ではあるものの、普段の生活を大切にした取り組みは、見ていて気持ちのいいものでした。それだからこそ結果もついてきたものと思っています。

自分が生まれ育ったこの地で、地域の宝である子どもたちと過ごすこと早三ヶ月。今後も、子どもたちも教職員も、一日を終えた充実感と明日への希望が溢れる学校の実現に向け、日々漸進していきたいと考えています。

新任校長の抱負

「駒場の丘」の風

一関地区 箱山 智美（千厩中）



私は、県南教育事務所管内での勤務は今回が初めてです。また、千厩の地は機会に恵まれず車でも通ったこともありませんでした。「私のことを知る人のいない初めての地だから、遠慮せずに思いっきり挑戦しよう。」と考えることにしました。

三陸縦貫自動車道宮古・気仙沼間が赴任前に開通し、移動は思ったより楽でした。

勤務初日の第1回職員会議では、冒頭の学校教育目標の説明で「東山の雄」を張り切って「ひがしやまの雄」と読み「とうざんです」と早速ご指摘をいただきました。出鼻をくじかれるとともに顔から火が出る思いでした。

初めての地で学ぶことばかりの毎日です。失敗も多いのですが「この地をもっと知りたい」という気持ちが高まっています。生徒たちと共に千厩の良さを学び、この地に誇りを持たせることができる教育実践をしたいと思っています。

入学式の朝、校長室に先輩方や仲間からの激励のお花とメッセージが届きました。副校長が「まるで事務所開きのようですね。」と驚いていました。「おめでとう。そしてしっかり頑張れ。」と声が聞こえてくるようでした。応援してくださる方がいることを力強く感じるとともに背筋が伸びる思いがしました。

千厩中学校の特色は、一関清明支援学校分教室（みなトモ教室）の生徒8人との共同生活です。生徒たちは小学校時代から一緒に生活しているので「みなトモ」の生徒に自然に手を差し伸べています。普段の生活でもよく目にしますが、体育祭で共演する姿に目頭が何度も熱くなりました。3年生男子生徒が、「みなトモ」の生徒の手をとり、声をかけながら競技をするのです。温かい本校の生徒たちの姿を誇りに思いました。

「駒場の丘」は美しい環境に恵まれいつも爽やかな風が吹いています。伝統を築き上げてきた諸先輩方に敬意を表しながら、地域、保護者や関係の皆様と協力し、私なりのやり方で楽しみながら精一杯頑張っていきたいと思っています。

各地区校長会活動 NOW

紫波地区校長会



各校長の英知を共有した 取組の推進を

福士 幸雄（矢巾中）

1 新型コロナウイルス感染症対策のための組織的な情報共有と対策協力について

各学校が各校長、各学校の英知を共有して、より効果的・効率的な取組をすることが組織として大事な視点ではないかと考えています。そこで、例えば地区中総体を確実に実施する観点から、地区内の中学校長で話し合い、大会前直近の2週間は対外的な練習試合を行わないように申し合わせて、少しでもリスクを軽減する取組を行いました。域内の学校が共通理解を図って取り組む体制づくりをすることも校長会のリーダーシップではないかと思えます。また、組織的な取組という観点から、県内の全中学校長の感染症対策取組の状況や実際に感染者や濃厚接触者が出た場合の具体的な対応フローなどを情報共有したり協力体制を確立したりすることも大事ではないかと考えます。県内全体のコロナ対策のより強固な基盤づくり、効果的・効率的な対応など、校長会という組織的な取組が、各校の日々の教育活動の下支えになると思えます。

今後、県内全中学校長で対策や対応などを共有していければ幸いです。

2 紫波郡各種事業の統廃合等の検討について

紫波町では、現在、小学校の統廃合が進められており、令和4年度から小学校5校となります。紫波地区全体としては、令和4年度から小学校9校、中学校5校となります。このような状況を鑑みて、紫波郡校長会では、小学校長会と中学校長会が連携協働して、紫波地区で行われている教育関連事業について見直しを進めています。この見直しに係る検討委員会は、紫波郡校長会長及び事務局長、紫波町及び矢巾町校長会長及び事務局長の6名で構成し、紫波地区教育事業統廃合検討委員会（仮称）を立ち上げました。検討の方向性としては、紫波郡内の矢巾町、紫波町それぞれで開催してきた各種事業を統合して一緒に実施する動きを創り上げようとするものです。例えば、小学校陸上記録会や音楽会などを合同実施することを検討しています。この他にも案件が多数あり、今後原案を作成して各校の校長に打診と意見集約、両町教育委員会とも相談しながら、令和4年度からの実施に向けて急ピッチで検討を進めているところです。「不易と流行」という言葉の通り、それぞれの時代に応じた組織体制を構築して、各種教育関連事業の見直しをかけていくことは重要で、そのような観点から当地区はまさしく大きな転換期を迎えています。

遠野地区校長会



「三本の矢」で遠野の 子どもたちのために

小向 敏夫（遠野中）

1 はじめに

遠野地区校長会中学部会は、遠野市内3校で構成され、県内最小である。一本では折れやすい矢も三本束ねると折れにくくなるという「三本の矢」の精神で、常に3人で集まり知恵を出し合い、遠野の子どもたちのために、一致結束してあたる。

2 本年度の活動方針

- (1) 会員の英知と情熱を結集し、教育的識見を高め、創意に満ちた学校経営にあたる。
- (2) 未来を拓く子どもたちを育てるために、地域及び市民の信頼と期待に応える。
- (3) 関係機関との連携を図り、新型コロナ対応

などの教育課題に協働して取り組む。

3 活動内容

- (1) 学校経営の充実に資する研修
働き方改革、GIGAスクール構想など新たな教育課題に対する研修を取り入れ、校長としての力量を高める。研修会では授業参観、学校経営の情報交換・協議、話題提供など研修・交流を深める。
- (2) 次代を担う人材育成
将来、学校経営を担う人材育成のために、「学校運営研究会」を実施するとともに、講師に対する論文指導・面接指導を協力して行う。
- (3) 地域の教育課題の解決に向けた取り組み
学力向上対策、コミュニティースクールなど中学校区間の連携を図る。

4 おわりに

コロナ禍の中でも、市内3校の生徒が学習活動、部活動、学校行事を通常通りできるように常に足並みを揃えて、協力して活動している。定期的に市教委とも懇話会を開催し、遠野の子どもたちのために、最大限意見を取り入れてもらっている。